

親族間(直系卑属外)の経営継承

経営継承までのプロセス

2016年

後継者(娘婿)が会社に勤務しながら先代経営者の農業の手伝いを始める

2017年

後継者として経営継承することを前提に、先代経営者のもとで就農開始

2018年

経営継承に関し、かごしま農業経営相談所よりスペシャリスト派遣による専門家(税理士)派遣開始

かくして具体的に 継承の取組みがスタート!

後継者と先代経営者が一緒に経営継承計画を作成
経営継承日を定め、準備を開始

2020年1月

資産売買契約を締結し、継承

2021年

経営継承に関する補助事業に応募



先代経営者/
山口 幸一さん
(68歳)の場合

肉用牛経営から露地野菜の栽培まで幅広く農業を手掛ける。経営継承は後継者の想いを尊重し、後継者を支える形で進めた。

- 収入金額: 66百万円(2019年)
- 所得金額: 非公開
- 従業員数: 家族従事者1名、正社員1名
- 事業地: 鹿児島県鹿屋市
- 事業概要: 農産物の生産(肉用牛、露地野菜)
- 規模: 繁殖牛33頭、田0.5ha、畑12ha

親から娘婿に継承（親族内継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者名義の開業届を提出。
- 継承する前に、専門家を交え農業経営を学ぶ。

資産（モノ・カネ）の継承

- 資産売買契約を行い、生物と棚卸資産のみを譲渡。
 - 対象：繁殖牛、素牛、飼料等生産に直接的に影響するもの
 - 農業用機械や施設は賃借契約により使用。
 - 対象：トラクター、牛舎等
- 【移譲者債務について】**
- 債務はなく、後継者への債務引き受け等は発生せず。



知的資産の継承

- 共に農業を行うことで技術を計画的に継承。
- 継承後は経営に関与せず、後継者より相談があった際に対応。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者 / 中島 将就さん（29歳）

継承年月：2020年1月
収入金額：54万円（2020年）

所得金額：非公開

従業員数：家族従事者1名、正社員1名

事業概要：農産物の生産（肉用牛、露地野菜）

規模：繁殖牛33頭、田0.5ha、畑12ha

今後、時代の流れに合わせ、地域に適した作物を作り、持続可能な農業経営を行っていく。
牛の増頭、牛舎増築を行い、規模拡大し、また、さらなる機械化による省力化を図る。



次ページにて継承ポイントを詳しく解説

山口家のケースから学ぶ経営継承あるある

登場人物



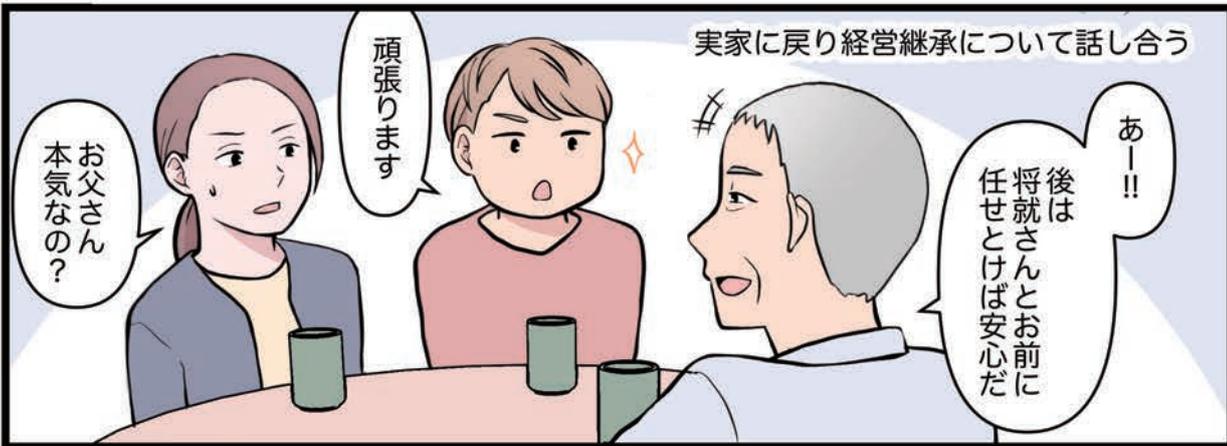
娘：中島南



先代経営者：山口幸一



後継者(娘婿)：中島将就



グッドポイント①

先代経営者夫妻はいつでも後継者のサポートをできるようにしている。ただ、「失敗することがいちばん本人のためになる」と考え、「どのタイミングで後継者にアドバイスをするかが最大の悩み」と語るなど、常に後継者のことを考えた対応を行っている。

先代経営者夫妻がいちばんの理解者





農業経営相談所を通じて税理士に相談

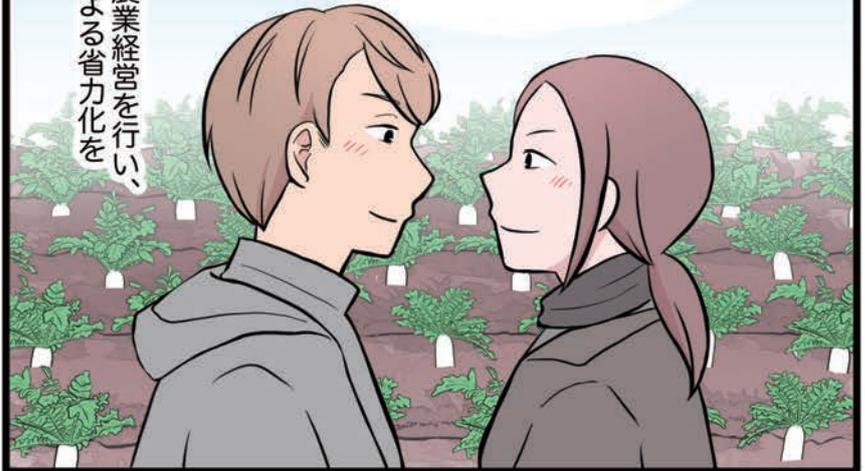
ほどなくして、
経営継承に着手

＼よろしくお願ひします／

更に!!
経営継承に関する
補助事業にも応募!!



現在は、持続可能な農業経営を行い、
規模拡大と機械化による省力化を
目指す2人であった



グッドポイント②

多くの関係者からの力を借りて経営継承に取り組んでいる。取引の多いJAとの間で、様々な問題に対応し、かましま農業経営相談所のスペシャリスト派遣を利用。継承の3年前から経営

継承計画書の作成を行うとともに継承後の法人化へ向けた検討も進めた。また、市役所の協力で、経営継承に関する補助事業に応募した。

多くの関係者の協力による経営継承



ケアポイント

後継者は、指示を受ける作業者から、実際に経営する立場に変わり戸惑ったことは、資金繰りだった。次から次へとある作業に集中して、やるべき資金手当てが遅れてしまうことがあった。経営を引き継ぐ際に、農作業だけではなく、経営全体の流れを把握しておくことは重要である。

経営全体の流れを把握しよう!

